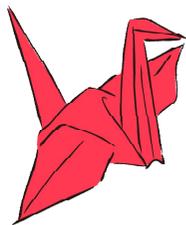


ご報告申し上げます。



昨年に引き続き、「平和の折り鶴」を募集しましたところ、**約36万羽**の折り鶴が集まりました。

戦後78年目を迎えた今年、平和を願い、核兵器の廃絶や戦争の根絶を願う皆様の強いお気持ちを感じ、「平和都市宣言」をしております本市として、今後ますます平和なまちづくりに取り組んでいかなければとの思いを強くしました。



○平和大使感想文(一部抜粋)○



私は、長崎での学びを通して、様々な世代が、原爆の悲惨さについて学ぶことが、尊い平和の実現に向けて一歩前進できるものと確信しました。そのため、私は長崎で得た経験や思いを、身近な人達から、更には市民をはじめ多くの人に発信していきたいと思います。

終戦から七十八年という月日経ち、生きている被爆者の人が年々少なくなる一方で、戦争を知らない世代が増える中、私たち若い世代は、この恐ろしい悲劇を繰り返さないためにも、過去の悲しみや苦しみを忘れることなく、被爆者の平和への思いを多くの人に知ってもらい、次世代に語り継いでいくことが重要です。



市内中学生2名が、「旭川市青少年平和大使」として、8月7日～12日の6日間、長崎市を訪問しました。

台風6号の影響により滞在期間が延び、また、平和祈念式典への出席も叶いませんでしたが、平和公園を訪れて皆様の思いのこもった千羽鶴を奉納して参りました。

長崎市で行われた「平和学習」を通して感じたことをこうほう旭川市民「あさひばし」10月号に掲載予定ですので是非御覧ください。